

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第６６回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**一つの行動で**

宮城・武田　陽

　「社会を明るくする運動です。読んでください。」と，一所懸命声を出しました。

　夏休みに近いある日，帰りの学活の時間，先生は私達にこんな事を聞かれました。

　「だれか，社会を明るくする運動に参加してみませんか。」

　特に心が揺れることもなく，私は軽い気持ちで聞いていました。どうやら，その運動は非行や犯罪をおかした人々の立ち直りや，社会復帰を支援するための活動だということでした。

　私は，この時点で興味がわいた訳でありませんでしたが，友人に誘われたのと，学級委員だし，という考えからなんとなく参加することにしました。活動内容はティッシュとチラシを配るだけだと聞いて，簡単そうで良かったな，というのが本音でした。

　当日，私は店の前に立ちました。配られたたすきをつけて，紙袋を持って。いつもとは違う学年の雰囲気は，また，新鮮でした。店の前に列をつくって並び，活動開始です。

　友人と一緒に大きな声を出しました。もちろん，みんながみんな受けとってはくれないだろうとは分かっていました。が，人はみんな違うんだ，と改めて実感させられました。私達がチラシを配り始めると，笑顔で受け取ってくれる方や，「ごくろうさま」や，「がんばってね」と声をかけてくれた方もいました。その一方で，うばうように持っていく人や，逃げ去る人もいたのです。

　笑顔で受けとってもらえると，とてもおだやかな気持ちになり，やる気がわいてきます。

　無視をされると，悲しくなり，やる気も失せてしまいます。

　この事で，立ち直りや社会復帰をした人々への周囲の態度もきっと同じではないかと考えるようになりました。犯罪や非行をおかした人々は，社会復帰をしてから，周囲から冷たい扱いを受けてしまい，再び同じ道を歩んでしまうのだそうです。笑顔で声をかけられると，自ら立ち直る力になると思います。実際，私達が声をかけられてうれしかったように，たとえ他人でも応援の言葉をかけてもらえばうれしいはずです。きっとこういうささいな出来事が，立ち直りの人々を支えるカギだと思います。

　社会を明るくする運動の方々やボランティアの方々には，これからも立ち直りの人を支えていってほしいし，この運動の必要さを伝えていってほしいです。そして，一人でも多くの人が，一日でもはやく普通の生活に戻れるように支援してほしいです。

　私は学級委員をしています。クラスの出来事に対して，臨機応変に対応することが私は苦手でした。でも，今回の活動を通して学んだ事を活かし，周りをよく見て声をかけ合う，クラスで助け合うような「自分達らしいクラス」を目指しています。私も助けられながら，苦手を克服できるよう努力しています。

　初めは，興味本意で参加したこの運動ですが，たくさんの事を知りました。私の普段の生活では知ることのないような事も学べました。

　一つは非行や犯罪をおかしてしまった人が身の周りにもいるということ。

　もう一つは，立ち直りや社会復帰を支える人がいるということ。

　人はそうして人の温かさを知ることができます。

　そして，この大切なことに気付かせてくれた，社会を明るくする運動の方々，ボランティアの方々には，とても感謝しています。